

第51回茨城県教育研究会
図画工作・美術教育研究大会 つくば大会
報告書

感じる つなげる 深める

～感性や想像力を働かせ、

新たな意味や価値をつくりだす造形活動～



学年	2年
領域	表現
題材名	「いろいろならべて いいかんじ」
授業者	教諭
場所	多目的室



学年	4年
領域	鑑賞
題材名	「カードで味わう，形・色」
授業者	教諭
場所	図工室



学年	8年
領域	表現
題材名	「美術で発信！ みどりの学園向上プロジェクト」
授業者	教諭
場所	CAI室

期日：令和元年12月6日（金）

会場：つくば市立みどりの学園義務教育学校

研究テーマ (小2・表現)	感覚や気持ちを生かしながら活動を考え、つくりだすことができる表現指導の工夫
------------------	---------------------------------------

つくば市立みどりの学園義務教育学校

1 題材名 「いろいろならべて いいかんじ」

2 目標

- ペットボトルキャップやいろがみの形や色などに気付くとともに、体全体の感覚などを働かせ、活動を工夫してつくる。(知識及び技能)
- ペットボトルキャップやいろがみの形や色などを基に造形的な活動を思い付くとともに、楽しく発想や構想をしたり、自分の見方や感じ方を広げたりする。(思考力、判断力、表現力等)
- 造形遊びに楽しく取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり、考えようとする。(学びに向かう力、人間性等)

3 題材について

(1) 研究テーマに関する主な資質・能力 (学習指導要領 各学年の内容より)

【A表現(1)ア】

造形遊びをする活動を通して、身近な自然物や人工の材料の形や色などを基に造形的な活動を思い付くことや、感覚や気持ちを生かしながら、どのように活動するかについて考えること。

【A表現(2)ア】

造形遊びをする活動を通して、身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れるとともに、並べたり、つないだり、積んだりするなど手や体全体の感覚などを働かせ、活動を工夫してつくること。

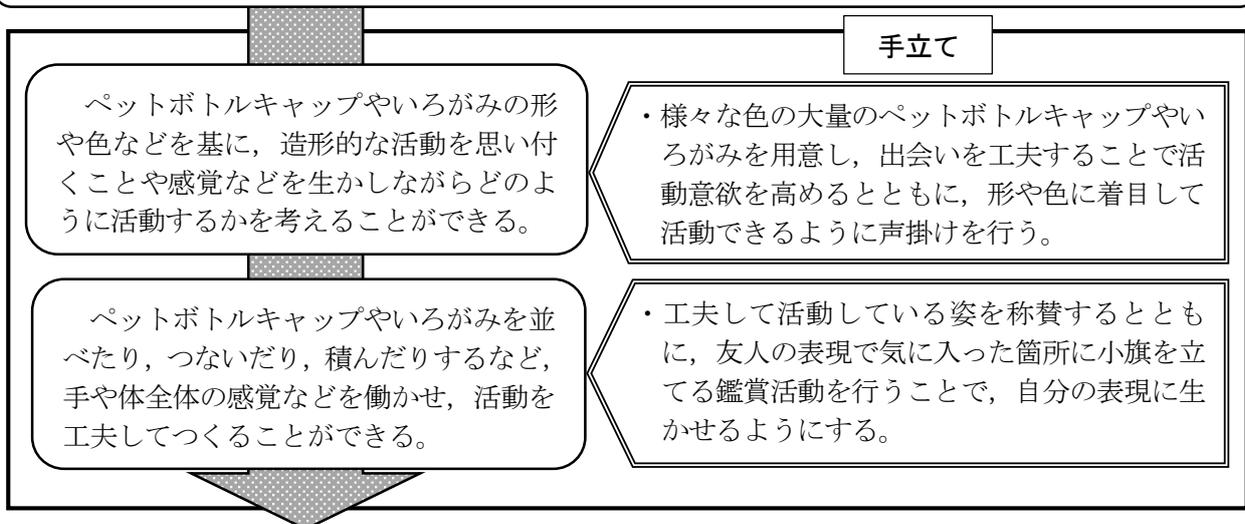
(2) 題材の概要

本題材は、2時間扱いで、ペットボトルキャップやいろがみを並べたり、つないだり、積んだりする等の造形遊びをする活動を行う。1時間目は、目の前に大量に現れたペットボトルキャップといろがみの形や色などから自分の感覚や気持ちを生かしてつくることで、発想や構想をしたり、工夫してついたりする。2時間目は、完成した作品について鑑賞し、造形的な面白さや楽しさを伝え合うことで、自分の見方や感じ方を広げる。

4 目指す力が育つ過程 (第1時)

【児童の実態】

- ・身近な材料を、形や色などの造形的な視点を意識して捉えることが少ない。



【授業後の児童の姿】

- ・身近な材料の形や色などを基に造形的な活動を思い付いたり、発想を広げたり、手や体全体の感覚などを働かせ、活動を工夫してつくることができる。

5 準備・資料

ペットボトルキャップ, いろがみ, 大型モニター, タブレットPC, 鑑賞用の小旗

6 授業の実際 (2時間扱い 本時は第1時)

時間	学習活動・内容	指導上の留意点・評価 (◎テーマとの関わり)
5	<p>1 学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;"> いろいろならべて「いいかんじ」をつくろう </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ペットボトルキャップといろがみを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・形や色などを工夫して並べると「いいかんじ」が生まれることを児童の発言から引き出し、全体で確認する。 ・様々な色の大量のペットボトルキャップやいろがみを用意して出合いを工夫することで、活動への意欲が湧くようにする。
15	<p>2 ペットボトルキャップといろがみで造形的な活動を行う。</p> <p>【予想される児童の活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペットボトルキャップやいろがみを色ごとに分類して並べたり, つないだり, 積んだりする。 ・ペットボトルキャップといろがみを組み合わせる。 ・友人とつながり, 一緒に活動する。 ・自分も表現の一部になる。 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・つくるものを最初から決めずに, 自分でどんなことができるのか試しながら活動する姿を見守るようにする。 ◎個人でつくる, 友人と一緒につくる等は, 児童の思いを優先するようにし, 一人で悩んでいる場合には, 友人と関わりがもてるように支援する。 ◎児童の活動の参考になりそうな表現をタブレットPCで写し, 大型モニターで表示しておくことにより, 児童が自然に見て参考にできるようにする。
5	<p>3 友人の表現で気に入った箇所に小旗を立てる鑑賞活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形や色などに着目して「いいかんじ」だと思ったところに旗を立て, 感じたことを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同じような箇所に小旗を立てた児童同士で, どこが「いいかんじ」だと思ったのか, 形や色などの造形的な視点で話し合えるように支援する。
15	<p>4 自分が「いいかんじ」だと思った表現を参考にして更につくる。</p> <p>【予想される児童の活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それまでつくっていたものを手直ししてつくる。 ・新しく付け足してつくる。 ・友人と相談しながらつくる。 <p>5 タブレットPCで自分の手掛けた表現を撮影する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な児童の活動を認め, 工夫している点について声掛けをする。 ◎ペットボトルキャップやいろがみを並べたり, つないだり, 積んだりする等の造形的な活動について考え, 感覚や気持ちなどを生かしながら工夫してつくっている。 (観察, 活動の様子の写真)
5	<p>6 本時の活動を振り返り, 次時に活動について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が工夫したところについて友人と話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に, 自分の表現で気に入ったところに小旗を立てさせることで, 撮影する時に悩まないようにする。 ・自分が手掛けた表現を撮影させることで, 自分の「いいかんじ」や工夫したところについて振り返ることができるようにする。 ・ペットボトルキャップやいろがみの形や色などを基にして, 楽しい活動を思い付いたり, 工夫してつくったりすることができたことを称賛する。 ・次時は, 各自が撮影した写真を基にして, みんなで「いいかんじ」を伝え合う活動をすることを伝える。

【板書計画】

【左：ホワイトボード①】	【中央：モニター】	【右：ホワイトボード②】
<p>いろいろならべて 「いいかんじ」をつくらう</p> <p>活どうのながれ</p> <p>①ためす 15分 ②見つける 5分 ～がいいかんじ ～な形がいいかんじ ～な色がいいかんじ</p> <p>③ひろげる 15分 ④ふりかえる 5分</p>	<p>※ 本時の課題 当日の活動の様子な どを次々に写した。</p>	<p>つかうざいりょう</p> <p>○ペットボトル キャップ ○いろがみ</p> <p>写真 写真</p> <p>この山は 何だろう</p> <p>ペットボトルキャップといろが みの山だ!</p> <p>写真 写真</p>

【児童の振り返り】

- ・みんなが集めたペットボトルキャップがたくさんあって、びっくりした。
- ・形をつなげていったら、面白い形になることがわかった。
- ・みどりの学園の(校章の)クローバーを見ながらつくった。クローバーの緑色が好きだから、工夫してつくった。
- ・最初は、どんな風にしようか少し迷ったけれど、だんだんと慣れてきたら色々つくることができた。友達とも自由にできたから楽しかった。
- ・キャップを重ねたり、カラフルになるように考えたりした。キャップと折り紙だけでいろんなことができることが分かった。
- ・キャップを並べたり、バケツに入れたりして楽しかった。
- ・友達がやっているのを見て、重ねたり積み重ねたりするのもいいんだ、と思った。
- ・高く積んだけれど、最後、壊れてしまった。タピオカをつくって楽しかった。
- ・キャップを並べて、友達のいろんな工夫を見つけることができたので、他の授業でも工夫をまた見つけたい。
- ・音楽祭のときに歌った虹みたいにした。並べて虹が笑顔になるようにした。虹の下に雲も作ってみた。
- ・ペットボトルキャップの同じ色や形ごとに並べたら、きれいにまとまることが分かった。いつもは捨てているものだけれど、集めたら楽しいものになってすごいと思った。
- ・ジュースを虹色にしたことを工夫した。まわりにたくさんキャップを置いてきれいにした。工夫すると楽しい。
- ・ペットボトルキャップのお城がつくれて楽しかった。
- ・ペットボトルキャップを捨てないで集めると、遊びにも使えることが分かった。こんなに楽しく遊べるとは思わなかった。
- ・キャップで虹をつくるときれいに見えることが分かった。虹の色の順番を考えてそろえるときれいに作れることに気付いた。またやりたい。
- ・山や上から見ると絵に見えるようにつくった。
- ・色々なキャップを使ってもいいけれど、色も種類も同じキャップだけを使ってもいいと思った。

研究テーマ (小4・鑑賞)	造形的なよさや面白さに気付き、自分の見方や感じ方を広げる鑑賞指導の工夫
------------------	-------------------------------------

つくば市立みどりの学園義務教育学校

1 題材名 「カードで味わう、形・色」

2 目標

- 自分たちが製作した作品から、形や色などの造形的なよさや面白さを感じ取り、見方や感じ方を広げる。
(思考力、判断力、表現力等)
- 鑑賞に楽しく取り組み、作品のよさや面白さを自分なりに味わったり、イメージを膨らませたりしようとする。
(学びに向かう力、人間性等)

3 題材について

(1) 題材で育成する資質・能力 (学習指導要領 各学年の内容より)

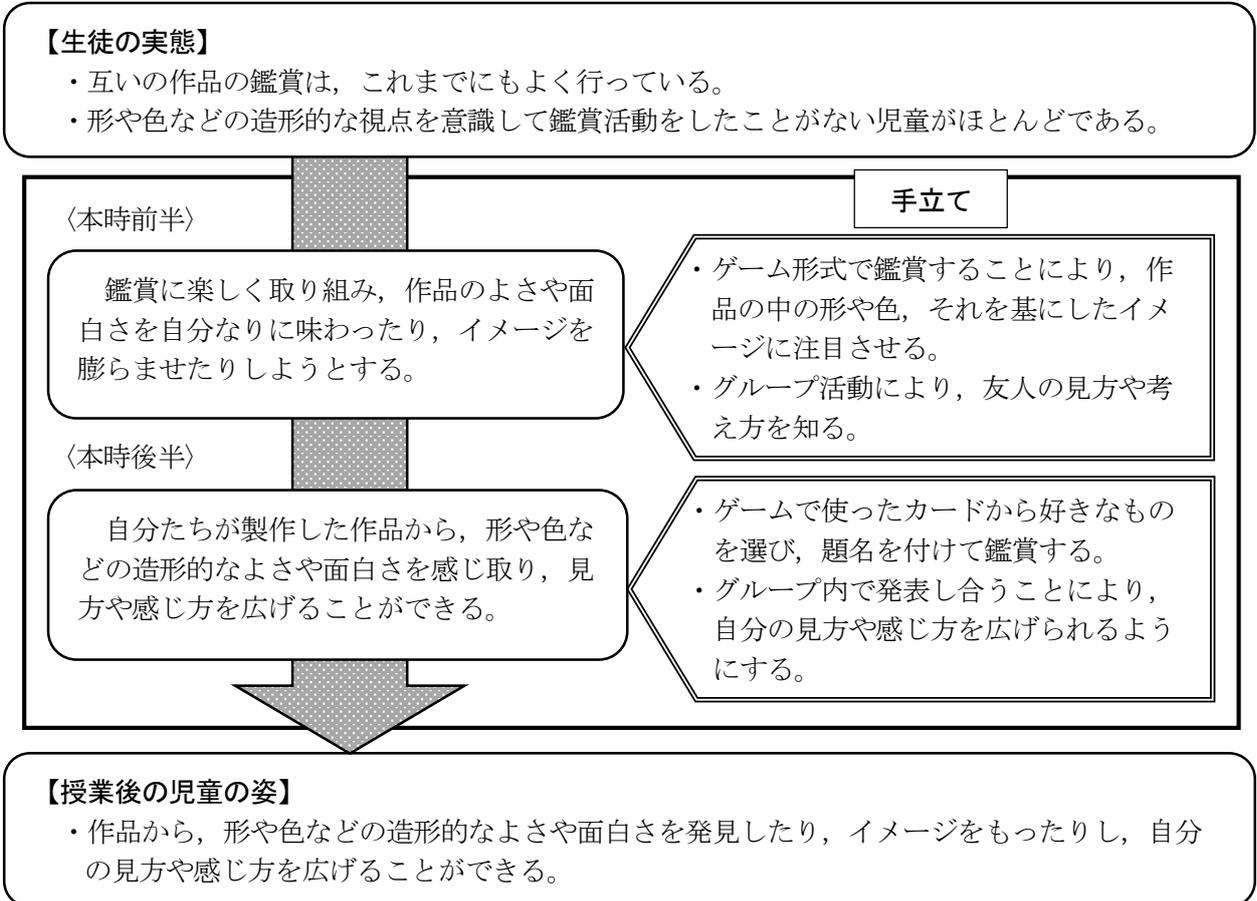
【B鑑賞(1)ア】

身近にある作品などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品や身近な美術作品、製作の過程などの造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げること。

(2) 題材の概要

本題材は、自分たちが製作した作品(「自分いろがみ」:様々な表現技法を試しながらつくった作品)のカードを使って1時間の鑑賞活動を行う。はじめに、形や色などの造形的な視点やイメージを扱ったゲームを行う。次に、多くのカードの中から気に入った1枚のカードを選び、自分で考えた題名を付けてグループで発表する。

4 目指す力が育つ過程 (1時間)



5 準備・資料

児童の作品（鑑賞カード）、ワークシート、大型モニター

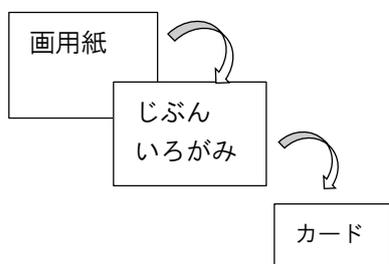
6 授業の実際（1時間扱い）

時間	学習活動・内容	指導上の留意点・評価（◎テーマとの関わり）
5	<p>1 本時の学習内容を知るとともに、学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>カードで味わおう！形・色</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分いろがみ」でつくったカードを使うことや、ゲームをしながら鑑賞をすることを伝え、本時の活動に興味をもたせる。 ・学習の流れを説明し、黒板に掲示する。 ◎ゲームを楽しむだけでなく、形や色を味わう鑑賞の学習であることを確認する。
17	<p>2 アートカードゲームを行う。</p> <p>(1) ゲームの進め方を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>①【七ならべ（形・色）】 手持ちのカードは8枚。場に置かれたカードと同じ要素を見付けて並べていく。 ・「色が似ている」 ・「形が似ている」</p> <p>②【いっせーのせ！】 場にすべてのカードを置き、出されたお題と似ているイメージのカードを一斉に指さす。 (例) やさしい感じ、楽しい感じ</p> </div> <p>(2) 3～4人のグループになり、ゲームをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームの進め方を大型モニターで示し、視覚的にも理解しやすくする。 ・ゲーム実施人数は4人（3人）とし、多様な考えが出るようにグルーピングをしておく。 ◎①のゲームでは、似ている形や色を並べる時に必ず説明を加え、友人の同意を得るように伝える。 ◎②のゲームでは、同じカードを選んだ時、違ったカードを選んだ時、その理由を確認し合うことが大切であること伝える。 ・ゲームを進めることが主になって、対話的な学びが少なくならないよう、様子を見て声掛けをする。 ◎鑑賞に楽しく取り組み、作品のよさや面白さを自分なりに味わったり、イメージを膨らませたりしようとしている。（観察）
18	<p>3 場にあるカードの中からお気に入りの1枚を選び、題名を付けて鑑賞する。</p> <p>(1) 各自で、ワークシートに記入する。</p> <p>(2) グループ内で発表し合う。</p> <p>(3) 全体に向けて発表する（数人）。</p> <p>(例) 題名は「楽しい宇宙」にしました。 このカードの藍色が宇宙の色で、丸い形や小さい点々が、星に見えたからです。 いろいろな色の星があつてにぎやかなところが気に入っています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の前に、教師が鑑賞の例を示す。 ・ワークシートは、形や色、イメージなどのポイントを絞って記入できるようにするとともに、自分の気持ちとしっかり向き合えるよう、話をしないで記入するように伝える。 ・発表する時に、作品カードがしっかりと友人に見えるようになっているかを確認し、状況に応じて助言する。 ・全体に向けての発表では、作品カードを大型モニターで映すようにする。 ◎自分たちが製作した作品から、形や色などの造形的なよさや面白さを感じ取り、見方や感じ方を広げている。（観察、ワークシート）
5	<p>4 本時の活動の振り返りをする。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えと友達の考えが違って、いろいろな考えがあることに気付いた。 ・形や色で、いろんなものがイメージできることが面白かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の鑑賞活動から学んだことや気付いたことなどについて、指名した児童の発表を生かしてまとめをする。 ・日常には様々な形や色があり、人はそれに影響を受けて生活していることを伝え、本時で学んだことを生かそうとする意欲をもたせる。

【板書計画】

カードで味わおう！形・色 (鑑賞)

これまでの活動 (製作)



自分だけの
いろがみカード

今日の活動

- 13:55 ★カードでゲーム { ①七(形・色)ならべ (5分)
②いっせーの一せ (7分)
- 14:10 ★1まいえらんで { 「1人」で味わおう！
「グループ」で味わおう！
(発表)
- 14:30 ★今日の感想

【当日のワークシート】

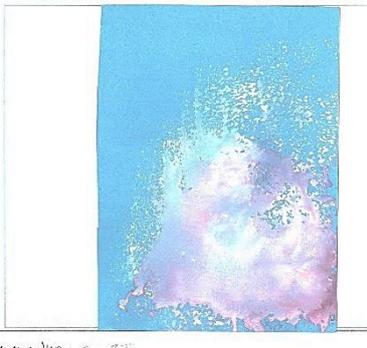


タイトル まはりの海の朝

・色について
青緑色がきれいで、金色や銀色もすくまじっている。

・形について
金色が広がって水面がさらさらしてはんしているみたい

・その他 (えらんだ理由など)
青緑色が海に見えて、すくまじっている緑色が海その場に見えた。



タイトル 朝の海

・色について 水の風景と雲みたいなのやまじりの白い色
みたし。

・形について 白のなごりが雲みたいなの多をして「は

・その他 (えらんだ理由など) 色合もすくまじりやせしくまじ
いろがみ

【主な振り返り】

- ・色々な道具で表せることがわかった。みんなの作品を見ることができて楽しかった。
- ・いろいろな形や色があっっておもしろかった。
- ・人それぞれ、色々なものに表してておもしろかった。
- ・カードゲームが面白かった。
- ・授業を通して、いろいろな形や色があることに気付いた。
- ・もっと色々な形や色を見つけてみたい。
- ・色々な絵があっ綺麗だった。
- ・みんなのカードを見ると、すごくいいカードやナイスアイデアというものがいっぱいあった。
- ・自分もこんな風に作ってみたいなというカードがあった。
- ・タイトルをつけるのが難しかった。でも、絵にふれあえるのはとてもよかった。
- ・色は数十色しかないけれど、形を合わせれば無限にできるんだなと思った。
- ・友達が考えた題名に「自分だったらどんな題名を考えるか」を考えるのが楽しかった。
- ・いろんな色があっ面白かった。
- ・みんなの好きな形や色があることが分かった。
- ・人によって好きな色や形が違うことがわかった。
- ・いつも見ている形や色ではなく、色々な形や色があった。
- ・それぞれのカードをよく見ると、似ているところがあった。
- ・他のクラスの友達作品を見て、とても面白かった。
- ・カードの様子は、似ているものもあっが、少しずつ違うところがあっ、全く同じものがなくて面白かった。
- ・自分が選んだカードの様子が不思議で、どうやって作ったのか気になった。
- ・自分の考えを上手く伝えるのが難しかった。
- ・絵には個性が出ることが分かった。七並べで特に感じた。

研究テーマ (中2・表現)	生活の中の美術の働きに気付き、目的や機能を考えながらデザインを考えることができる表現指導の工夫
------------------	---

つくば市立みどりの学園義務教育学校

1 題材名 「美術で発信！みどりの学園向上プロジェクト」

2 目標

- 形や色彩，それらが感情にもたらす効果などを理解するとともに，P C 描画ソフトウェアの特性を生かし，自分の意図に合う表現方法を追求し創造的に表す。(知識及び技能)
- ピクトグラムで学園の生活を向上させることをテーマに主題を生み出し，伝達の効果と美しさなどの調和を総合的に考えて表現の構想を練るとともに，目的や機能との調和のとれた美しさなどを感じ取り，見方や感じ方を広げる。(思考力，判断力，表現力等)
- 主体的に表現や鑑賞に取り組み，学園の生活を向上させるピクトグラムをつくろうとする。(学びに向かう力，人間性等)

3 題材について

(1) 題材で育成する資質・能力 (学習指導要領 各学年の内容より)

【A表現(1)イ(イ)】

伝える目的や条件などを基に，伝える相手や内容，社会との関わりなどから主題を生み出し，伝達の効果と美しさなどとの調和を総合的に考え，表現の構想を練ること。

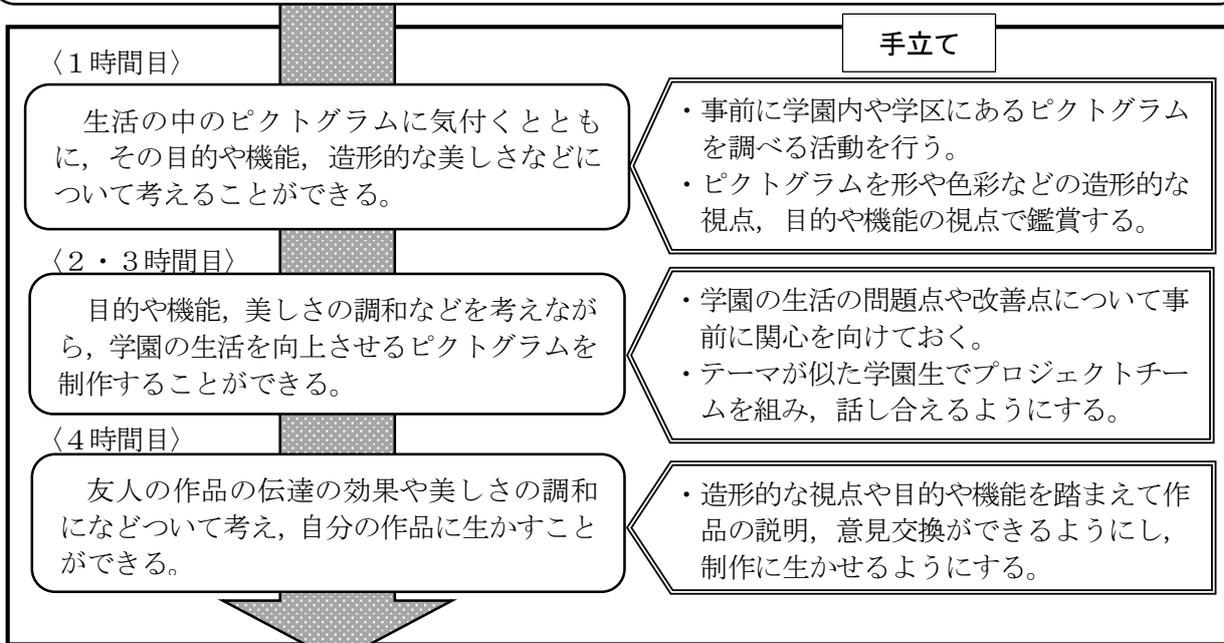
(2) 題材の概要

本題材は，4時間扱いで，学園の生活の様子について話し合ったことを基に，学園生活が向上するように呼びかけるピクトグラムを制作する。1時間目は，生活におけるピクトグラムの役割について知るとともに，学園生の生活の課題について話し合い主題を生み出す。2・3時間目は，似たテーマ同士のプロジェクトチームになり，各自の意図に迫るピクトグラムを制作する。4時間目には，制作中のピクトグラムについて意見交換を行い，作品の練り直しを行う。

4 目指す力が育つ過程

【生徒の実態】

- ・生活の中の美術の働きについて気付いていない学園生が多い。
- ・目的や機能を考えながらデザインを考えたい経験が少なく，自分本位で制作する学園生が多い。



【授業後の生徒の姿】

- ・生活の中の美術の働きに気付くとともに，目的や機能を考えながらデザインを考え，制作することができる。
- ・制作したピクトグラムを学園内に貼り，作品に触れた学園生の様子を観察させることで，より生活の中の美術の働きを実感させる。

5 準備・資料

ワークシート, タブレットPC, 大型モニター, HDMI ケーブル

6 授業の実際 (4時間扱い 本時は第4時)

時間	学習活動・内容	指導上の留意点・評価 (◎テーマとの関わり)
5	<p>1 学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>よりわかりやすくピクトグラムの意図を伝えるにはどうすればよいだろう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時は、前時までに制作したピクトグラムを発表し、意見交換をすることで、学園の課題を解決し、生活を更に向上させることができるデザインにする活動であることを伝える。 ・第1時に確認したピクトグラムの造形的要素や伝達の効果等について押さえ、本時もこの視点から制作することを確認する。
20	<p>2 グループで作品を発表し、意見交換を行う。</p> <p>【発表者の観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学園の課題を設定した理由 ・形や色彩などの工夫 ・どのような意図があるか 等 <p>【鑑賞者の観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品のよい点 (形や色彩などの工夫, ピクトグラムとしての美しさ 等) ・作品の改善点 (学園生に意図が伝わりやすいデザインか 等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトチーム (学園の課題が似ている者同士のグループ) とは違うグループを設定し、より客観的な視点から意見交換が行えるようにする。 ・各自の考えた課題やピクトグラム案が示されたワークシートを活用することで、具体的な話し合いになるようにする。 ・ピクトグラムを鑑賞する際、全体的な印象だけでなく、形や色彩などの造形的な視点を根拠に話し合えるように支援する。 ◎前期ブロック (1~4年生) の学園生にとっても分かりやすく、望ましい行為・行動につながるデザインとなっているか考えるように声を掛ける。 ・グループで改善案がなかなか出ない作品に関しては、他グループにも助言を求めるように促す。 ◎作品の目的や意図、伝達の効果や美しさなどとの調和、またそれらが感情にもたらす効果等を感じ取っている。(観察)
20	<p>3 意見を基に作品を練り直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デザインはもっとシンプルにした方が見やすいという意見があったので、形をもっと単純化できるか考えてみよう。 ・同系色だと落ち着いた感じになってしまい、「危険」な状態が伝わりにくいという意見があったので、対照的な色合いにしてみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループをプロジェクトチームに戻して、どのように作品を練り直していくのか意見交換できるようにする。 ・意見は必ずしも取り入れなくてもよいこととし、自分が納得した意見や改善しなければならぬポイントのみ修正や加筆をするよう、声を掛ける。 ◎主題を基に、伝達の効果と美しさなどの調和を総合的に考えながら、表現の構想を練っている。(観察, 作品)
5	<p>4 本時の活動を振り返り、次時の予定を確認する。</p> <p>(1) 本時の活動で学んだことについて自分の考えを発表する。</p> <p>(2) 次時の予定を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時開始時から、友人の意見を受けてどのように作品が変わったか、またその効果などを振り返り、数人に発表させる。 ・みどりの学園の生活を向上させるために、学級で協力して課題を考え、友人からの意見を生かしながら制作できたことを称賛する。 ・本題材の作品を校内に掲示し、作品を見た学園生が課題を解決することができているか、観察することを伝える。

【板書計画】

美術で発信！みどりの学園向上プロジェクト

よりわかりやすく
ピクトグラムの意図を
伝えるにはどうすればよいだろう

1,2年生や対象の
学年の人に思いや
意図が伝わるか。

本時の流れ

- 13:50 課題をつかむ
- 13:55 グループで意見交換
- 14:15 作品を練り直す
↳完成したら
「みんなのノート」へ
- 14:35 振り返り

【発表する人】

- ・学園の課題を設定した理由
- ・形や色彩などの工夫
- ・どのような意図があるか

【鑑賞する人】

- ・作品のよい点
形や色彩などの工夫
ピクトグラムとしての美しさ等
- ・作品の改善点

ここをちょっと
～に変えらるともっと
～風によくなる
と思うよ

【当日のワークシート】

美術で発信！みどりの学園向上プロジェクト

8年

自分の考えた
学園の課題 トイレを綺麗に使う。

よいところ(工夫点)や改善点を図や言葉でメモしよう
「綺麗に使う」という意図を伝えるには、どのようなピクトグラムがよいだろうか。
①心を遣ったことで、視覚的に伝わりやすいものがある。
②シンプルで、見やすい。一目で分かる。
③線や色で、視覚的に伝わりやすいものがある。



◎振り返り

グループで話し合いを行い、お互いに改善点を言い、よりよい作品をつくることができた。また、よりピクトグラムを見やすくしたことで、学校に張る場所も考え直すことができた。

美術で発信！みどりの学園向上プロジェクト

8年

自分の考えた
学園の課題 廊下を走っている人がいる

よいところ(工夫点)や改善点を図や言葉でメモしよう
①(良) 躍動感がある。いい
②(良) 人がリアル
③(良) 遠くから見ても見えて、分かりやすい。
④(良) Xは細く、見やすい
⑤(良) 線が細い



◎振り返り

みんなの意見を取り入れて、よりよいピクトグラムをつくることができた。低学年でも見て意味が分かるピクトグラムができたと思う。

【主な振り返り】

- ・班の中で様々な指摘があり、それを直すことでより見やすく、分かりやすいピクトグラムをつくることができた。
- ・「移動中はしゃべらないで」を表したピクトグラムの口元が隠れていたもので、口の部分を強調して斜線を反対にしたら、前よりも口の部分が見えて良い作品になった。
- ・丸い枠に×印のマークにしていたが、友人にNOを表すということを教えてもらったから、斜線に直した。
- ・(時間を守ろう、というピクトグラムで) 時計を強調させた方がよいと言われたので時計を大きくしてみたが、思い通りにできなかった。
- ・友人にアドバイスをもらい、線の太さや色など、今まで気付いていなかったことに気付くことができた。また、よりピクトグラムを見やすくしたことで、学校に張る場所も考え直すことができた。
- ・自分でつくったピクトグラムを白黒にして考えた時に、重なって見づらいため、斜線を細くした。また、円をきれいにした。それによってよりわかりやすいピクトグラムをつくることができた。
- ・色を替えて目立たせることができた。また、線を太くしたことによって、遠くで見ても認識しやすくなった。小さい子にもわかるようになったと思う。
- ・ソフトウェアを思った通りに使いこなすのが難しかった。
- ・前期課程(小学校)の1・2年生が見やすいように他の人の意見を聞いて改善することで、低学年でも見やすいようなピクトグラムになった。
- ・アドバイスをもらったので、少し変えたらよくなった。ただ、アドバイス通りにやったら違和感があるところもあったので、元に戻したところもある。
- ・遠くから見た時に、何を伝えたいのかはっきりとわかるように工夫した。自分だけだと気付けないところがあったから、たくさんのアドバイスをもらえてよかった。
- ・みんなにアドバイスをもらえて少し改善した。線を太くしたり、バランスを整えたりした。前よりは見やすくなったかと思う。もう少し改善できるところがあったら直したい。
- ・自分の考えと友人の見え方で差があり、修正に生かすことができた。

授業振り返り

題材名「いろいろならべて いいかんじ」

【授業を振り返って】

造形遊びの課題は、場の用意や準備の労力が大きいこと。

以前の題材では、落ち葉を並べて造形遊びをした。今回の授業では、ペットボトルキャップといろがみを使い、自由度が高い活動によってのびのびと創作活動に没頭する児童の姿が見られた。また、子供たちが思いがけない用具を使うこともあり、発見の多い授業となった。発想を広げていくことを主眼とした。



多目的室での活動だったので、今日のめあてを電子黒板と掲示板上に示し、活動の流れが児童に分かるようにした。授業の流れの中では、次の2点について触れたい。

- ① iPadで児童が製作している様子を撮影し、その場で電子黒板に映していった。これにより、他の児童との発想の共有ができ、さらにそれを広げる児童もいた。一方で、ペットボトルキャップを積んでいる作品を写したら、積んでいる児童が増えてしまったので、写す作品のバランスを考えたい。
- ② 中間鑑賞では、自分の名前の旗を「いいかんじ」と思った作品のそばに立て、選んだ理由を友達に話した。この活動を通して、選んだ理由がより焦点化された。全体的には、自分のところに旗を立てている子が多かった。「いいかんじ」を言葉にすることで、後半の活動につなげることができた。

《感想》（土浦市立東小学校 先生）

自分も小学2年生の授業で、色水遊びや砂場遊びの実践をしたことがある。iPadが活用されていて、自分にない発想だった。電子機器がそろっていればこういう活動ができるんだと感じた。他の子ども作品を見てつくり変えている子がたくさんいた。自分の学校にあるデジタルカメラなどを使って、学校にあるものを活用して実践してみたい。

《質問》（つくば市立春日学園義務教育学校 先生）

子供たちが形をつくり直す中で、先生が注目していたところは

《答え》

今までやった造形遊びの中で一番つくり変えていた。いろんな活動をしていた。その中で、余計なことを言いつぎないようにしようと決めて、「どういう風にしたいの?」「なんでこの色なの?」と質問しながら、「こういう風にしたいんです」といった思いを子供から引き出せるように声掛けをしていた。

《質問》（つくばみらい市立豊小学校 先生）

最初、子供たちにキャップを見せないでいたのが効果的だった。後から現れたのを見て、子供たちが歓声をあげていて早くつくりたいという思いが伝わってきた。

あれだけの量のキャップをどうやって集めたのか。

《答え》

福祉委員会やつくばスタイル科の中でのエコについての活動の中で、キャップ集めをしていた。夏休みの宿題にもして、学校全体で呼びかけていた。その時に、美術で使うということは明かしていなかった。また、他の学校か



らも譲り受けた。

《感想》（水戸市立笠原中学校 先生）

写真で子供たちの作品を流してある作品を写した時に何かの生き物のような形をしていて、さかな？動物？と子供たちから声があがったが、先生はその答えをはっきり言わなかった。そのことが、創造させることにつながっていた。見立ての中で形を言ってしまうと、子供の発想がとまってしまう。



《質問》（石岡市立南小学校 先生）

いろがみを使う子が少なかった。

先生から見て、どうしたらいろがみをもっと使う子が増えたと思うか。

《答え》

当初、キャップだけで予定していた。他の学校の実践で木片も使っているのを見た時に、児童は積むことに集中していた。今回はならべる、つなげることに焦点を当てたので、いろがみも並べながらやってくれるのではないかと思ったが、うまくいろがみを使わせるような働きかけができなかった。

子供たちが好きな材料を使った結果として受け入れたい。

その中でも、いろがみを丸めてジュースのストローにするなど予想外の使い方をしているものもあった。

題材名「カードで味わう、形・色」

【授業を振り返って】

製作では、ビー玉を転がす、歯ブラシで飛ばす等、偶発的な模様を楽しむ内容で、出会ったものに愛着をもって児童は喜んでやっていた。それで終わりではなく、カードにして味わうことができるというのが、楽しい。鑑賞って面白いと改めて気付いた。

授業で意識したことは、児童に形や色に注目させることだった。「ビー玉を転がした線が似ているね」といった技法に注目する子がいたので、「形を見るんだ」、「色を見るんだ」ということを意識して伝えた。普段の鑑賞の授業では、仲の良い子の絵を見る傾向がある。友達の見聞を聞くことで、否定するわけでもなく、「なんでだろう」という疑問をもち、詳しく突っ込んで意見を聞いてもらうこともできたのが良かった。また、スクリーンに作品を映して見せたことで「他の子の作品も見たい」となった。



《感想》（坂東市立長須小学校 先生）

子供たちの方が興味わくわくで取り組んでいるのが大変興味深かった。それは先生の下準備、それから授業の構成を飽きさせずに作っていたところが、子供たちに反応としてでてきたのではないと思う。いろんな発言とかを聞いていると言語活動になっている。「色が似ている」だとか「形が似ている」とか、「温かい色」だとか、子供たちはそれぞれの見方・考え方を出した上で、「でもこういう見方もあるね」「こういう感じ方もあるよ」「だからこうなんじゃないの？」と選んだカードに自分の理由や補足を入れている。それが広がっていった図工ではあるが、国語的な教科横断的な部分まであり、大変良かったと思う。



《感想・質問》 (水戸市立双葉台小学校 先生)

とても素敵な授業だったと思う。「あら、素敵なカードね」というふうみんな頷いて見ていた。モダンテクニックを使ったカードでやる授業は教科書にもあって、普段使いに生きるものだった。研究授業でしかできないようなものではなくて、これを見たことによって「ああ、私もこんなふうにやってみたいな」というヒントを出してくれたのではないか。中には先生の工夫が沢山あって、色んな折り紙を用意したり、モダンテクニックのたらしやビー玉やダンボールのスタンプみたいなものがあったりした。同じ大きさをスケールを沢山用意してあり、後ろ側にたくさん先生の仕掛けがあった。

モダンテクニックには、マブリングやデカルコマニーなどいっぱいある中で、これを選んだ理由は？それからアートカードゲームもいっぱい種類があるが、「いっせいのせ」のゲームを選んだ理由は？



《答え》

技法については美術の専門の先生に聞き、沢山の種類の素材は用意して、どうやって使うかは殆ど説明せず、任せるような形でやった。ただ、一人が発見をするとそれが広まって、また違うものに挑戦する子が現れてという形の製作だった。素材を沢山集めるくらいで、特に技法の説明はしなかった。それがまた良かったのでは。ゲームは、中学生とかもやれるし内容もシンプルなので面白い。「いっせいのせ」のお題は何がいいかと、色々やってみたが、抽象的すぎず、分かりやすすぎずというところで決めた。

《感想》 (土浦市立土浦小学校 先生)

気になった作品を一枚選び、ワークシートに記入するということと、前半のところで色や形に注目していくということがスモールステップで段階的にできるようになっていたのが良かった。先生がみんなのことを途中で止めたり、「それは違うよ」「それはダメだよ」とは言っちゃいけないよ、という風に言ったりしていた。それを小学校にいるうちからできるように授業で経験しておくことで、中学校に行っても鑑賞の時間に生きていくのではないかなと思った。

《感想・質問》 (坂東市立沓掛小学校 先生)

主体的・対話的・深い学びという文言に当てはまるような授業であった。「湖に降る雪」なんて、あのメガネをかけた男の子がそういうこと(題名)を考えるなんて想像も出来ないくらいロマンチックで素晴らしいなと思った。これを評価にはどのように結び付けていくのか？

子供たちの色んな呟きを拾うことはできたのか？

タブレットは、評価には反映させるのか？

《答え》

意欲的に取り組んでいると子供たちの姿を見て思うが、評価はワークシートで形と色について、きちんと理由付けがあるかどうか、というところが評価になる。

机間指導をしても、ちょっと恥ずかしそうにしているのはどのクラスも同じだった。(子供たちが)人から「え？」みたいな反応で見られるのは、これまでの鑑賞の授業でもあり、声が小さいとか恥ずかしそうな姿は見られたので、できるだけ近づいて声を拾うようにした。

動画では撮影してはいないので、写真を評価に使う。

《感想・質問》 (つくば市立学園の森義務教育学校 先生)

みどりの学園はICTなども先進的なので、動画を見せながら、または、撮ったものをすぐモニターに映すのはどうやっているのか？

(モニターをみて)こういうのは評価に起こしてみても使うとかはあるのか？

《答え》

ICT機器は充実している。自分はiPadを使ってきたが、Apple TVを使ったのは初めて。Appleユーザーからすると離れていても通信できるのでとても重宝する。(モニターを見せながら)これはプレ授業でいろがみをつくっている段階のもの。

動画を見て評価をしようとは思っていないが、自分のためにはなる。

《感想・質問》 (笠間市立岩間第二小学校 先生)

夏にもこちらのプログラミングの発表で参加した。先程の子供が書いた文を見ると自分たちの学校より論理的に文章が書けている。「書かせる」という指導は行っているのか。

《答え》

書く力は自分が担任していてもなかなか難しいと感じている。ただ、こういう「聞く」とは別に、国語とか「書く」活動で養うものかなと思いを力を入れてやっている。

題材名「美術で発信 みどりの学園向上プロジェクト」

【授業を振り返って】

本校は施設一体型の小中一貫校なので、小中学生が同じ校舎で学んでいる。また、本校はICT機器もそろっている。この二つの本校の特徴を生かした授業をしようと考え、今回の題材を設定した。

大会の「感じる つなげる 深める」というテーマに見合うように、導入では、街の中や学校の中にピクトグラムがあふれているということに気づき「感じる」活動。今日制作したピクトグラムをどのようにして、小学1・2年生もしくは対象の学年に伝えることができるかを「つなげる」、さらにもらったアドバイスを生かして「深める」活動を計画した。

現在5年生の担任で、5～9年の授業を行っているため、小学校から中学校に少しずつ深めていけるような授業構成を日々考えている。



《質問》

パソコンを使ってデザインするというのはかねてからやりたいと思っていたが、ソフトを使うというハードルが高いように感じる。今日のソフトは、どのようなものか。生徒たちは、今日の授業の前にソフトの使い方を学んでいるか？

《答え》

ソフトはスタディノートです。つくば市内の学校に導入され、主に総合の時間に使われている。市の小中学生は低学年の時から使い方を学んでいる。例えば、5年生ではヤゴ救出大作戦総合の学習があるが、このソフトで文字を入力したり、写真を入れたり、絵を描いたりしてプレゼン資料をつくる。よって、このソフトの使い方を学習する時間はとっていない。他の市町村であれば、イラストのソフトを使うと良いのでは。

《質問・意見》

(自分が)ピクトグラムの題材をやって感じたことだが、ピクトグラムのデザインは似てしまう。簡潔に誰でも分かりやすくとなれば、シンプルな形に集約される。問題は評価。(同じような仕上がりの作品に対して)評価をどのようにするのかと気になった。評価するにあたり、生徒に書いてもらったワークシートのことや、気を付けていることがあれば教えてほしい。

生徒の今日の会話のやりとりで、線の太さやこれを無くすとかそういうところで話していることが多かった。もう少し深まりのある会話が見たかった。例えば、線の禁止のマークの向きを右に傾けるのか左に傾げるのか。本をきれいに扱うのであれば、本をきれいに扱おうという肯定的なマークが分かりやすいのか、それとも破っちゃだめですと禁止のマークが分かりやすいのか。そういった深まりがほしかったというのが希望。能力の高い生徒たちなので、そこまで話していたらどうなっていたのかなと思った。

《答え》

評価については、迷うところ。いい機会ですので先生方の意見をいただきたい。

《質問・意見》

走るなというサインを考えていた生徒が、「円の中心が合わないから太くしたいがずれる」と言っていた。評価では、(たとえば「円が均一に描かれているか、線の太さやバランスなど仕上げの美しさ」が大切。ソフトの能力的に) そこまではできないのか？

《答え》

円に関しては、初めに補助点を打っておいてそこからドラッグすると中央がそろうということに気付いてやっている生徒や、またそれを聞いてやる生徒もいた。このソフトは使い方が難しい部分があり、パワーポイントの方が自由に描けるかもしれない。そこは(ソフトの選定)はこれから検討していくべきところだと思う。

《意見》

ピクトグラムを扱ったことはないが、評価は難しいなと思った。もしパソコンのなかで過程が残っていて、それを見ることができれば、いろいろな案を考えたという分量、動かしている量が残っていれば、その量も評価の一つになると考えた。あとは、最終的に見た目として線の位置やバランスなどを見るようになるが、やはり子供たちが最後まで練っていけば練っていくほど作品がシンプルになるため難しいところ。その練った過程をいかに残すかが評価につながっていくと思った。

《意見》

最近オリンピックのピクトグラムがでていると思うが、ピクトグラムは一つではなくて、統一性ということが大事になってくる。そういう意味では、オリンピックでもスポーツの特徴を捉えつつ、開催国のオリジナル性が出ていると思う。今日は一つだけのテーマで見せていただけたけれど、例えば生徒が三つの種類のピクトグラムのデザインを関連させて描くということにすると、そこで評価も広がっていくのでは。

《意見》

禁止の線の右と左の角度のことですが、ピクトグラムの基本で、「NOからきている禁止のマークなのでNと同じ向きだ」ということは教えたほうが良い。色使いも青は指示、緑は避難誘導だと約束事がピクトグラムにはあるので、その理解からはじめてデザイン化をしていくと、最後は世の中のピクトグラムの読み取りもできるようになる。世の中のでているピクトグラムと学校にあるピクトグラムは同じ線上にあるというのが大事だなと思うので、そうすれば子供たちも納得して迷わず、それを基にアドバイスもできたのかなと思う。

《意見》

深まりの部分について、分かりやすさや見やすさ、単純さ、そういうのはピクトグラムの本来のあるべき姿で、パッと見て直感的に分かるというのが大事。今日の子供たちは分かりやすく見やすくというところで工夫について話していた。美しさという視点で、色合いは1、2色と書いてあるので、派手にすればきれいということではないと思うが、生徒の実態から目指す姿に美しさの調和という言葉があるので、美しさというところにさらにポイントを置くと、同じようなマークにならず、もう少し生徒たちのこういうデザインがいいかもしれないという広がりが出て、それが深まりにつながるのではないのか。



分科会

分科会発表テーマ

分科会	題材名, 研究テーマ	発表者
1 小学校 低学年	【題材名】 「うっして あそぼう！」 【研究テーマ】 感性や想像力を働かせ, 新たな意味や価値をつくりだす造形遊び指導の工夫	鹿嶋市立中野東小学校
2 小学校 中学年	【題材名】 「クミクミックス」 ～動物たちがよろこぶ秘密基地を作ろう～ 【研究テーマ】 自ら課題をたて, 主体的に問題解決する態度を育てる表現指導の工夫 —協働学習を取り入れた活動を通して—	下妻市立豊加美小学校
3 小学校 高学年	【題材名】 「糸のこドライブ」 【研究テーマ】 つくりだす喜びを味わいながら, 自分のイメージを具体的にする表現指導の工夫 —コミュニケーションを活発にする場や時間の確保を通して—	水戸市立吉沢小学校
4 中学校	【題材名】 「絵が語る物語」 ～ピーテル・ブリューゲル 雪中の狩人～ 【研究テーマ】 造形的なよさや美しさなどを自分なりの価値意識をもって主体的に感じ取り味わわせる鑑賞指導の工夫	北茨城市立中郷中学校

第1分科会【小学校 低学年】
「うつして あそぼう！」

感性や想像力を働かせ、新たな意味や価値をつくりだす造形遊び指導の工夫

提案者

鹿嶋市立中野東小学校



助言者 神栖市立植松小学校
司会者 鹿嶋市立大野中学校
記録者 鹿嶋市立大同東小学校

1 提案者から

(1) 授業実践の概要・説明

① 題材名 「うつして あそぼう！」

鹿嶋市では、平成30年度と令和元年度に、国体サッカー応援ののぼり旗を各学校で作製した。中野東小学校では、4～6年生が文字やイラストを描き、1～3年生が、その周りに発砲スチロールでつくったスタンプを押して旗を完成させた。発砲スチロール等の身近な材料を使った形の写し取りへの興味・関心が高かったことから、本題材を設定した。

児童が材料に進んで働きかけ、自分らしい造形的な表現を追求し、発見する題材で、3時間扱いとした。1時間目は、身近にある材料の形を写し取る活動を十分に楽しむ時間とした。2時間目は、写し取った形や色などを、並べたり重ねたりするなどして工夫しながら楽しむ時間である。3時間目は、できた作品を鑑賞し合い、よさや思ったこと、工夫点などを伝える時間とした。

② 児童の実態

学習に対する意欲が高い。図画工作科では、折り紙を折ったり切ったりすることを好む児童が多い。また、個々の思いをもち、具体的に楽しんで表現する児童が多い。目指す児童の姿は、身近なものの形や色などを基に造形的な活動を思い付き、感覚や経験を生かしながら、どのように活動すればよいかと考えることができる姿である。



③ 授業における手立て

大きさが異なる様々な容器や模様が異なるスポンジを用意するなど、材料の工夫をした。友達の仕事のよさや工夫に気付く場面の設定をした。3時間目の鑑賞の時間以外にもお互いに作品を見合えるようにし、形や色、表し方の楽しさや面白さに触れられるようにした。また、形や色の組み合わせ方が上手な児童を見付け、称賛した。

④ 授業の実際

1時間目は、個人で身近にある材料の形の写し取りをして、身近な物の形や凹凸に興味をもつ時間とした。何種類もの材料を用意するだけでなく、同じ種類の材料でも様々な大きさや素材を用意

することで、「たくさんある。」や「うれしい。」と、意欲的な反応を示す児童が多くいた。大きな丸や小さな丸を組み合わせたり、スポンジの裏と表ではできる模様が違うことに気が付いたり、様々な表現を楽しむ姿が見られ、「またやりたい。」と次の活動を楽しみにしているようだった。



2時間目の最初には、ICTを活用し、スクリーンに前時の活動の様子を映して振り返った。「何の材料を使ったのかな。」などと問いかけながら振り返ることで、前時を想起させるだけでなく、友達の表現方法のよさにも気付けるようにした。グループでどのように活動を進めていくか相談してから、実際に活動に移った。水彩絵の具ではなく、ポスターカラーを共同で使えるように用意した。活動が始まると自然と友達をほめる発言や、新たな表現方法の気付きが見られた。できた模様から「太陽みたいだね。」や「人の顔みたい。」など、見える形を考えることができた。振り返りの時間には、1時間目と同様に「またやりたい。」や「楽しかった。」という感想の他に、次時の鑑賞を楽しみにしている発言も見られた。

3時間目は、鑑賞カードを用いて、がんばったことや工夫、友達の作品のよいところ、感想の三つの観点で鑑賞を行った。お互いの作品のよさを感じ、思ったことを伝え合った。また、もっとこうすればよかったという改善点にも気付くことができた。

(2) 考察・振り返り

① 成果

- ・材料を十分に準備したことで、意欲的に楽しく活動することができた。
- ・鑑賞の時間以外にも互いのよいところを見つけたり認め合ったりする場面が多く見られた。
- ・みんなで大きな紙にかくことで、のびのびと楽しく活動していた。
- ・授業の振り返りの際に、工夫を明確にしてほめることで、子供の喜びにつながった。
- ・前時の活動をスクリーンに映して振り返ることで、内容を思い出し、本時の活動につなげることができた。

② 課題

- ・教室での活動だったため、スペースが限られてしまい、ダイナミックな活動ができなかった。
- ・あらかじめ、テーマを設定してから作品づくりをすると効果的だったのではないか。
- ・「一つの作品をグループでつくる」のではなく、「紙を四分割して個々につくる」というグループが見られた。



2 質疑応答・授業の感想

<鹿嶋市立豊郷小学校 先生>

同じ材料でも、いろいろな大きさを用意したことは、子供たちの意欲につながったのではないかと
思う。また、グループで大きな紙にかくことで、対話的な授業になったのではないかと
思う。

Q：造形遊びの活動中に手を止めさせてもよいか。

A：時間で区切るようにしている。机間指導をしながら、活動を続けた方がよければ時間を延長する
など、様子を見ながら判断している。

<土浦市立東小学校 先生>

Q：ふりかえりシートではどんな感想があったか。

A：〇〇さんのここがすてきだった，〇〇さんのここをまねしてみたいという感想があった。書く作業が苦手な子供は，ふりかえりシートだけではなく，つぶやきを聞いたり活動の様子を見取ったりした。

<司会：鹿嶋市立大野中学校 先生>

Q：大きな紙で作業することによって，お互いに見合い，干渉することはなかったか。

A：本時のテーマからそれた活動をする班もあったため，一度手を止めさせ，本時のテーマを再確認することで教師が授業の方向性を修正した。

<つくば市立東小学校 先生>

Q：机の上だけでなく，床でやってみたり，教師が黒板で手本を見せたりすることで，枠にとらわれずに紙を大きく使うことができるのではないか。

A：床や洋服の汚れ等の心配があり，今回は机の上での作業を選択した。

【全体協議】

Q：造形遊びにこだわらず，図工において材料や準備等，何か工夫をしていることはあるか。

<小美玉市立竹原小学校 先生>

A：週案を出し，汚れる可能性がある活動をするときには事前に知らせている。図工の日用に汚れてもよい服を用意している家庭もあり，保護者の協力が必要だと感じる。

<石岡市立南小学校 先生>

A：画用紙の下に新聞紙を敷き，汚れないようにしている。また，隣とぶつからないように座席をコの字にしている。場の設定をすることで，絵の具の水を交換するときにも水がかかったり衝突したりするのを防ぐことができる。

<取手市立久賀小学校 先生>

A：たくさんの材料を用意することで意欲や想像力がかきたてられる。教師が子供と一緒に活動することで，教えあったり楽しさを深めたりしている。

<五霞町立五霞東小学校 先生>

A：毎年，「造形活動の日」を設けていた学校があった。ジャングルジムや廊下など，全学年が一斉に造形活動を行い，しばらくしたら一斉に撤去するという活動をしていた。材料集めは急には難しいので，日頃から少しずつ集めておくことで，活動の輪が広がる。

3 助言者から

(1) 研究テーマについて

① 「造形遊び」…学習活動

子供が材料や場所などに進んで働きかけ，感覚や活動を通して捉えた，形や色，イメージなどから思いのままに発想や構想を繰り返し，経験や技能を総合的に働かせてつくる主体的な創造活動

② 「感性や想像力を働かせ」…手段

「感性」は，様々な対象や事象を心に感じ取る働きであるとともに，知性と一体化して創造性を育む重要なもの。「想像力」は，児童が思いを膨らませたり想像の世界を楽しんだりすること。

③ 「新たな意味や価値をつくりだす」…目標

(2) 造形遊びの授業のポイント

- ① 指導のねらいを理解すること
 - ・ 育成する資質・能力を明確にする
「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」
 - ・ [共通事項] を押さえる
- ② 系統性を考えること
- ③ 材料や場所を考えること
 - ・ 子供の活動を予想する
 - ・ どのような資質・能力が育成されるのか
- ④ 子供が造形的な活動を思い付くような導入を考えること
 - ・ デモンストレーション
 - ・ 材料や場所との出会い
- ⑤ 過程を捉えること
 - ・ どのような資質・能力が働いているか
 - ・ 作品, 活動, つぶやきなど
- ⑥ 評価の仕方を考えること
 - ・ 評価情報の収集 (観察, ワークシート, 質問紙, 自己評価, 相互評価)



第2分科会【小学校 中学年】

「クミクミックス」

～動物たちがよろこぶ秘密基地を作ろう～
自ら課題をたて、主体的に問題解決する態度を育てる表現指導の工夫
—協働学習を取り入れた活動を通して—

提案者

下妻市立豊加美小学校



助言者 筑西市立古里小学校

司会者 境町立猿島小学校

記録者 常総市立絹西小学校

1 提案者から

(1) 授業実践の概要・説明

① 協働学習について

予測できない変化や問題に対応できる人材を育成するためには、これまでの知識偏重の教育ではなく、他者と協働して課題を解決していくための思考力、判断力、表現力を育てる教育が大切である。楽しく活動しながら学ぶことができる図画工作の教科だからこそ「他者と協働して課題を解決していく力」を身に付けさせることができる。

② 現状と課題について

教員83名への質問紙調査から考察した現状と課題において、子供の発想力を伸ばしたいのだが、なかなか発想が広がらないことが多く挙げられた。具体的には、発想は指導者が押し付けるわけにはいかないが、なかなか作品づくりに取り組めない子供がいて困っていることや、作品を製作する前にどのような指導を行えばよいのか、どうすれば発想力が身に付くのか分からない、一人一人の感性を高める指導は難しいといったことだった。指導者の児童への手立てが足りないことや指導者自身の経験が少ないこと、児童の発想を広げる方法が分からないことなどが挙げられた。



(2) 考察・振り返り

発想の場面で協働学習を取り入れた指導を実践することで、思考力・判断力・表現力の向上が見られた。一方で、協働学習に対して肯定的な意見をもってはいるが、自分の力が発揮できないことや人と同じ物をつくりたくないといったことへの不満も見られた。そのため、①個でもグループでも満足できる題材設定②少しだけ難しい課題設定③問題発見・解決を協働で行う④フレームワークを用いた問題解決の四つを授業での取り組みとした。3年生の題材設定で「動物たちがよろこぶひみつちをつくらう！」誰か(動物)のために作品をつくることを題材設定にすることで、問題解決する態度を育てることができ、児童は秘密基地という言葉にわくわくした気持ちで取り組むことができた。材料の組み方を考える場面では希望点列挙法を取り入れ、アドバイスを付箋に書いて学習力

ードに貼り、各グループで「もっとこうしたい」を話し合うことができた。鑑賞会では、大きな秘密基地として、グループの作品を合体させて、自分の作品を見せることが恥ずかしい子供の抵抗感を少なくし、満足感をもたらすことができた。また、今までに経験したことのない少し難しい課題を友達と協働で作業することで、新しいアイデアが生まれ、助けてもらったりほめてもらったりしたことに喜びを感じることもできた。今後の課題としては、「造形遊び」か「工作」かについて、思い付いた多様の組み方を楽しみながら活動することや、評価方法について思考・判断・表現の様子を可視化できる思考リストやポートフォリオを作成すること、指導者の問いや声かけについての研究などが挙げられた。

2 (1) 質疑応答

Q：サイズ感の捉え方について、どのように捉えていたのか。

A：子供によって様々であった。作品を持ち帰りたいと考えて小さい箱を選んだ子供もいた。

Q：イメージスケッチ無しで学習に入ったのか。

A：今回の学習ではイメージスケッチはしていない。意見の交流を通してイメージを形成していった。

Q：参考作品はあったのか。

A：参考作品はなかった。作品づくりの過程において、その場で子供たちが紹介しながら進めていった。

Q：子供たちの変容は何かあったのか。

A：他教科でも協働学習を取り入れたことで、発言するのが苦手な子が少しずつ意見を言うことができるようになってきた。また、相手の意見は責めたりけなしたりしないルールを入れることで、思いやりの心が高まったと思われる。人間的な温かさを子供たちに感じるようになった。

Q：製作途中での評価や鑑賞は、どのように行っているのか。

A：簡単に5分間程度で行った。また、ペア学習は子供たちにとってよい刺激となった。

Q：今回の学習で、のりや接着剤などを使用しなかったのはどうしてなのか。

A：今回の学習では「少しだけ難しい課題設定」にすることで、同じ材料、個数といった中から如何にして条件を満たすにはどうすればよいかを、子供たちが協働して課題を解決していくことができると考えたから。

Q：作品を完成させるまでの時間配分が足りず難しい。

A：鑑賞の時間を入れずとも、子供たちは作品づくりの過程の中で何気なく友達の作品を見ている。そこでの子供たちのつぶやきを指導者が見逃すことなく拾ってあげることが大切であると考えられる。

Q：グループ分けはどのように行なったのか。

A：グループ分けの配慮は行っていない。カードでランダムに決めることもある。しかし、グループ分けに関しては、学級や子供たちの実態によって工夫が必要とされるものと考えられる。

Q：自分だけで学習を進めたい子が多い場合は、どうすればよいか。

A：図工の学習だけに限らず、他教科でも子供たちの交流しやすい雰囲気の日頃から積み重ねてい



くことが大切である。

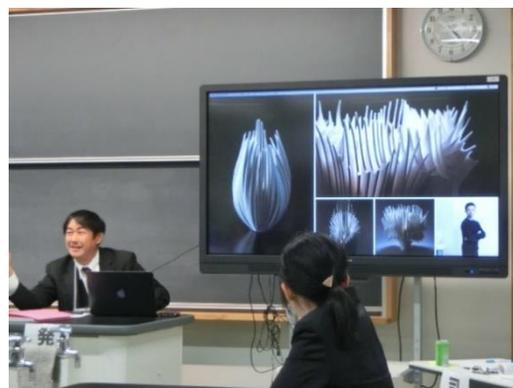
(2) 感想

- ・グループ分けは、題材によっても変わってくる。
- ・鑑賞において、作品のよいところを話し合うには語彙不足を感じる。図工室に語彙コーナーを設置することで、子供たちが自然と使えるようになるのではないか。
- ・のりや接着剤を使わないことで、材料をちぎったり結んだり子供たちの創造力が広がった。

3 助言者から

(1) 事前活動のアプローチ

- ・他教科との関連を考えたり話し合いを取り入れたりすることは、子供たちの主体的な学びにも繋がっていく。
- ・人の目を通して、自分の作品を見たり捉えたりすることができ、表現が広がっていく。今回の学習を通して、子供たちは物の見方や捉え方が豊かになった。
- ・作品づくりの過程で途中評価を入れることで作品づくりに変化をもたらすことができ、図工の学習を進める上で大切なポイントであった。



(2) 評価について

- ・指導者は子供たちの作品をどのように評価すればよいのが難しい。まずは、作品がどのようなものであるか、指導者が分かることが大切である。
- ・日本の作品評価は、誰がつくったのかというよりも「誰が使ったのか」の方が評価されがちである。
- ・外国の人々は、日本の焼き物に対して評価が非常に高い。また、1万6千年続いてきた日本の焼き物の歴史に対しても関心が高い。
- ・作品を審査する人(第三者)の目が、とても大切になってくる。
- ・指導者が作品を見る目を高めることが大切である。



第3分科会【小学校 高学年】

「糸のこドライブ」

つくりだす喜びを味わいながら，自分のイメージを具体的にする表現指導の工夫
—コミュニケーションを活発にする場や時間の確保を通して—

提案者

水戸市立吉沢小学校



助言者 東海村立照沼小学校
司会者 水戸市立常澄中学校
記録者 水戸市立双葉台小学校

1 提案者から

(1) 授業実践の概要・説明

①題材について

- ・本題材は8時間扱いで，1枚の板を切り出して立体的に構成する活動である。
- ・あえて教科書を使った糸のこの授業を検証する。全く新しい教材でなく，実際に日頃使っている教科書からの題材で何を押さえ，何を学ばせたいかをもう一度捉えなおしたいという考えから取り組んだ。

②児童の実態から

- ・電動糸のこの扱いが初めてであり，失敗をする児童が多い。
- ・児童から心配の声が上がっていた。

③準備・資料でのポイント

- ・NHK for school 映像資料の動画の活用をした。
この映像には，親しみ深い歌・映像が入っているため，児童の関心・意欲も高まるのではないかと思われ，活用を試みた。結果，友達が切る横で，口ずさむ姿が見られ，大変意欲的且つ分かりやすく展開できた。

④授業の実際

- ・題材名の工夫，ICT機器の活用，学習形態の工夫（電動糸のこの場の設定の工夫，動線に気を付けて配置，意図的なグループ人数，アドバイスを付箋に記入，友達のアドバイスを見る有効さ），組立後のデジタルカメラ撮影，ゲストティーチャーとして学校長も参加（実際の映像・動画・作品あり）



⑤授業後の児童の姿

- ・電動糸のこぎりの扱い方を知り，様々な形の板材を組み合わせて作品ができた。
- ・立体作品の形の面白さについて考え，実感することができた。

(2) 考察・振り返り

- ・糸のこドライブへの取組の達成感があり、もっとくねくねさせたい、という感想が多かった。
- ・作品のイメージを良い方向に向かわせようとしている姿が多く見られた。
- ・活動の節目で友達との交流設定をすることで、楽しい気持ち・活動の集中力が増した。
- ・さらに題材名の工夫をしたい。
- ・活動意欲・活動の面白さを継続するための学習形態を変更させる。
- ・言語活動。他の子の作品を自分のことのように紹介する姿があった、もっと紹介したい。動線を工夫した。糸のこに慣れて切り込みができた。

2 質疑応答・授業の感想

同じ題材を経験したことがある。糸のこ教材は、指導する側もドキドキする。しかしながらポイントがあり、刃の方向と取り付けさえ分かればさほど難しいところはない。しかし、非常に安全面の配慮が必要な題材である。様々な方法で安全面に気を配れると再認識した。

Q：場の工夫、苦労についてはどうか。

A：廊下側から壁側に等間隔で電動糸のこぎりが8台。等間隔で壁側に配置。教室内で動線を作ることで安全面に配慮した。子供たちの動きに無理が無いように教室内にコーナーを確保した。

活動中に糸のこの刃が曲がったわけを尋ねると、慌ててドライブしたことが原因とお互いにアドバイスできることが大切であった。刃の交換も児童がお互いに刃を付けにいく協力体制がポイントである。

電動糸のこのストッパーがなかったことは気になる。

Q：糸のこドライブは、下がきをかいているのか？

Q：切り込みがあるが、指導はどのようにしているのか？

A：思うままにドライブさせるようにした。従って、下がきをするわけではなく、楽しく活動させた。複雑に糸のこドライブするとき、「道路にかいてないよね。」などとアドバイスしながら、自由にドライブ（運転）するかのように切るようにさせた。10ピースくらいを基本にさせる。10ピースより多めのピースの子も大分あり、かなり複雑な切り方もできた。そういう作品がクラスの雰囲気を読み、自ずと切り方の模倣をしたり、言語活動の中で高めたりできた。着色も、全面塗らせない。「全部塗らなくてもよいよ」と言っている。木の優しい色を優先したい子も認めた。

土台は切り込みスケールを用意した。細かければ、一人のもち時間が長くなることも留意される。（参考作品を展示され、紹介があった。）

大変細かなヘアピン切りのもの、組み合わせ方が複雑なものもあった。

女子は作品が小さくなりがちであり、言葉かけ等配慮が必要である。

これはたまたま女子の作品であったが、視点が多様な作品になった。

【全体協議】

Q：安全面への配慮はどうされていますか？各先生方の実践をグループで紹介し合う等グループでの話し合いを入れたいと思います。（グループ討議）

グループでの話し合い等が出たことを紹介してください。感想でも結構です。

A：ストッパーがない糸のこの危険さが憂慮される。技術科ではもっと厚い木材を扱う。厚ければより危険。厚い板材にはストッパーは大切な役割を果たす。

美術科にあるものは、ストッパーが無いものがあり、技術科にあるものは、ストッパーがある。ストッパーは外さないようにしたい。細かな安全面への配慮も大切である。

A：ものの管理の大切さを考えさせられた。子供たちに教師が用具の使い方の実演・ICTを見せたり、糸のこ・絵の具・キリ・彫刻刀のコーナーを分けたりする。

糸のこコーナー、キリなどのコーナーの住み分けをする。

A：図工室の物品を使いやすく整理、またはナンバリングしておくといよい。

掲示資料を用意しておくといよい。

材料・用具等のアプリも文科省から出ている。

刃の下の方にペンで印を付けておくと、刃をつけやすい。

切り口のざらつきは待っている間に磨くようにすると、子供たちも待ち時間が気にならない。

板のばたつき防止にしっかりと手で押さえる必要がある。

A：安全管理が大切である。特に、児童がきちんとした使い方を知ることは大切である。

人材バンクをつくるのも一つの方法である。ミシンの扱い等もそうだが整理整頓は大切である。

安全面で大事なものは、約束事をきちんとする。切っている人以外に、横に来ないこと、目に注意させる等。

糸のこは重いので、固定しておくことも大切である。

黒板に掲示してやるのも一方法である。

A：糸のこの場所やのこぎりの移動の仕方のルール、手袋を使ってのカッター使用、彫刻刀を版画作業板よりゴム版でできた滑り止めが大事である。

3 助言者の先生から

(1) 新学習指導要領による授業

- ・新学習指導要領からの考えに合う授業であったと考える。イメージの具現化により、学びに向かう力がしっかりと身に付く教材であった。
- ・育てたい三つの側面に合う図工においての内容は、発想や構想、技能についてである。言語活動では、「とらえる」から、「気付く」、「分かる」、「理解する」が大切である。これは育ちに従って変化するものである。両方にまたがって指導したい点である。そういった意味でも、本題材がその意味を成していたと言える。
- ・本題材では、質問や感想にあったように、用具の使い方がポイントのひとつになっていたが、用具・材料では、どの学年で何をを使うかは重要である。本教材は、5年生から共通事項で題材にしている電動糸のこの学習であった。電動糸のこの学習をいかに分かりやすく教えていくか大変工夫されていた。このように、NHK for school「当たり前図工」等デジタルデータを活用して技能を学ぶことも有効である。掛け図も大事となる。自信をもって活動するためにも、失敗が心配な子にも具体的なアプローチが必要である。文科省でも用具・材料についての共通事項の扱い方を紹介するアプリが出ている。大いに活用したい。
- ・技能の習得は一人一人の思いを叶えるためのツールである。
- ・新学習指導要領の図工のトライアングルを意識するとよい。ネットでもこの新学習指導要領のトライアングルが出ており見られるので、参考にしてほしい。

(2) 〔共通事項〕について

- ・新指導要領において、学びに向かう力、人間性は大変大事であるが、それらに、鑑賞の4観点が加わり、糸のこの活動ができるようになってどうであったかの振り返りができる。
自然光や光を使って、影の美しさに気付くといった使い方もあるので参考にしてほしい。

(3) 発想、構想

- ・この教材の発想や構想は、新学習指導要領のトライアングルにも気付かせるものとしても有効であった。
- ・教科書にも出ている題材であるが、これをどう使うか、どう大事にするかが大切である。
教科書の中にも、たくさんの素晴らしい教材がある。
もっと大切に取り扱ってよいのではないか。
今回の実践のように、教科書の題材を深く掘り下げ、これからも意図しているものを着実につかんでいく授業を大切にしていきたい。
- ・糸のこの待ち時間が子供たちの交流時間になっているようであった。これは言語活動の場ともなっているので、ここから対話が生まれてきて有効である。

(4) 図工美術の果たす役割

- ・図工美術が果たす役割・使命は、ますます広がっていくのではないだろうか。
教材に余裕がもて、もてていく状況だから、さらに「視野が広がる」
図工美術科は、「人としての幅」を広げ、「奥行きがそなわる教科」でありたい。
夢を与える図画工作科・美術科に、これからますますしていきたい。



第4分科会【中学校】

「絵が語る物語」

～ピーテル・ブリューゲル雪中の狩人～

造形的なよさや美しさなどを自分なりの価値意識をもって主体的に感じ取り味わわせる鑑賞指導の工夫

提案者

北茨城市立中郷中学校



助言者 日立市立大みか小学校

司会者 北茨城市立大津小学校

記録者 日立市立久慈中学校

1 提案者から

(1) 授業実践の概要・説明

「雪中の狩人」を題材として選んだ理由

- ① 教科書に掲載されている作品で人気が高い。
- ② 絵画的技法にすぐれ、鑑賞対象として見応えがある。
- ③ 描かれている要素が多くクイズによる鑑賞活動に適している。
- ④ 人々の暮らしや風俗が凝縮されている。
- ⑤ 遠近法等、絵画表現の技法の魅力を感じられる。

作品の細部へと目を向けさせるために、先入観のない第一印象による感想を書かせた後、描かれている内容に興味をもたせるためのウォーミングアップを行った。作品の中で起きている事件の場面を探す活動をすることで、作品への興味を引き、自然と作品の細部までじっくりと見せる効果があった。火事が起こっている場面に注目させて、作品の細部をよく見ることでより深く作品の内容が分かることに気付かせることができた。

その後、本時のねらいを確認し、絵の主題を理解し深く鑑賞するための活動を行った。狩人に注目させるために「狩りの前か、後か？」日常的な農民の生活の姿に注目させるために「描かれているのは一日のうちのいつの時間帯か？」という二つのクイズを考えさせ、生徒は細部の表現までじっくり鑑賞することができた。作品の表現から読み取った意見、さらに自分自身の生活体験を描かれている物に照らし合わせて考えた意見をもつことができた。まとめの活動として、付箋紙に「好き・気になる・ステキ」と思う部分と、そう思う理由を書いて作品に付箋紙を貼り班で意見交換をすることで、さらに深く主体的に作品について考えることができた。付箋紙は一人2枚ずつで、生徒全員が自分の意見を書くことができた。最後の作者の作品へ思いを考える活動では、自分の価値意識をもった上で作者の価値意識に迫ることができ、いろいろな方向から作者の心情に迫り、絵を理解しようとする考えをもつこ



とができていた。

この授業を通して、作品を細部の表現まで鑑賞することを楽しんだり、友達と意見交換をすることを楽しんだりしており、自分の考えたことを人に伝えたいという思いが高まったという感想を書くことができていた。

(2) 成果と課題

第一印象を聞いたときには、表面的な意見が多かったが、活動後は探求活動を通して得た気付きを反映した意見が多くあげられた。探求活動を行うことで、時代や地域、文化等様々な角度から作品を捉えることができ、自分なりの価値意識をもって鑑賞することができた。その上で作者の考えに共感しより深く作品を理解することにつながった。

今後は、生徒に与える情報量が課題で、情報が多いと生徒の考えを狭めてしまうし、少ないと作品の主題を的確に読み込ませることが難しい。効果的な情報量や与え方について研修していきたい。また、発展としてブリューゲルの「ネーデルランドの諺」「子供の遊戯」でも応用できると考えており、検討していきたい。

2 質疑応答・授業の感想

クイズ形式でやることで、作品の細部まで視点を向けさせる手法は良かった。鑑賞資料として資料集などを活用するのではなく作品だけを大きく拡大していることで、余計な解説などはなく、作品に集中して自分たちで考えようとすることができたのではないかと思う。



Q：ブリューゲルの作品への思いは？

A：中学校1年生の最初の鑑賞として、物語性のある物が良いと考えてこの作品を選んだ。教科書に載っている大きさでは火事の場面は気付かない。大きく拡大したことで細部まで鑑賞することができた。

鑑賞では、より本物に近いものを見るからこそその気付きがある。より実物に近い大きさに鑑賞することは効果的だったと思う。対話型鑑賞は主流になっているが、対話させるだけの鑑賞には課題が出てきている。正しい情報や知識を与えながら話し合うことでより深い気付きがあり、鑑賞欲求が満たされる活動になっていた。

Q：生徒の考えを引き出す手立てとして、どういうところに着目しているのか？

A：クイズ形式にし、生徒の意見に対して反対や否定はしたくないが、そのままにしてしまうと作品の主題を理解したことにはならないので、作品の解説については、これまでいろいろな人が考えた意見として提供し、最低限知っておいて欲しい知識を伝えるようにしている。それによって生徒は理解したり納得したりしているが、それを知ることによって生徒の発想を狭めてしまっていないかということはいつも気にしている。

Q：3年間の鑑賞の題材の流れはどのようになっているのか。

A：1年生では今回の活動、2年生ではいろいろな名画を見る活動、3年生では修学旅行に向けて仏像の鑑賞を行っている。3年間で連携するような内容にしていけると良いと考えている。

Q：季節感の強い作品をいつぐらいに扱うのか。

A：秋の終わりから冬の初めに扱っている。他教科との関連も今後の課題と考えている。今回の作

品は、地域の気候や文化が色濃く表現されており、社会科と連携し気候や文化との関連を知ること、描かれている内容をより深く理解し、作品を味わうことができると思われるので、来年度以降の課題と考えている。

仏像の鑑賞は、宗教色が強いと感じている。宗教性の強い生徒への配慮のため、1年生ではキリスト教の絵画として「レオナルド・ダ・ビンチ」の一点透視法の表現を扱い、2年生ではイスラム教を扱う予定である。

Q：生徒の宗教への配慮として考えていることや、仏像の鑑賞までの中間的な題材はあるのか。

A：仏像の鑑賞で扱うのは、奈良の盧舎那仏・阿修羅など、著名な如来・菩薩・明王・天部で、仏像の階級ごとの造形的な特徴や表現に着目しているので、宗教的な内容に触れていない。仏像への興味をもたせる足がかり的な内容になっており、そこまでの配慮の必要性を感じていない。文化的な理解を深めることも鑑賞の役割であると考え、今後内容を深め、宗教的な文化にまで内容を深められるようにしていきたい。

クイズ形式の「絵の中で事件が起きている。探してみよう」という発問により、ぐっと作品に引き寄せられて、表面的な鑑賞から深まりがある造形的な視点をもった鑑賞に高めることができていた。発問の大切さを改めて感じた。

Q：今回のスタイルになるまでに授業の構成で変えてきたことは？

A：ウォーミングアップを入れないでやったこともあったが、クイズをすることで楽しいことをするという雰囲気を出す効果があり取り入れている。最後に付箋紙に書き込ませる内容も、物語性を感じるという題材であることから「この中から聞こえてくる声を書いてみよう」というテーマで書かせてみたことがあったが、表面的な内容になってしまい深まりが感じられないので、書かせる内容を変えた。

前任校の生徒たちが熱心に学習する様子を見ることができ、生徒に合わせた、教材の与え方を工夫していることがVTRから見てとれた。美術に造形は深い訳ではなく、学びに向かうことが難しい生徒が、クイズ形式をとることで作品に引き込まれ、鑑賞の段階を1つ1つ踏むことで対話を進め鑑賞を深めることができていた姿を見て、感慨深いものがあった。

Q：実際に授業をしていて生徒たちの様子はどうだったのか。

A：この学年は、明るく乗りやすいが、集中したり深めたりすることが苦手な傾向にある。鑑賞活動で書いていた文章を見ると、作品をよく見ていた事が分かり、この方法が合っていたのだと思った。生徒の実態に合う活動になっているのかまだ不安なところはあるが、少しずつ実情を見ながらアレンジしていきたいと考えている。

細密に描かれた作品で、教科書や資料集に掲載されている小さいままの大きさを鑑賞したら、ぱっと見て、「暗いなあ」で終わってしまう。この授業を通じて、生徒にとってこの作品の価値が高まり、深まりのある活動ができていた。

3 助言者から

美術の授業では、制作の楽しさだけでなく、作品を鑑賞することの楽しさも伝えたい。今回の実践を通して、歴史に残る名画は、好き嫌いにかかわらずいろいろなことを感じさせたり考えさせたりしてくれるという良さを改めて感じた。また、鑑賞の活動に正解・不正解のない活動であるが、作品を見るポイントや知識を知っていることで、より深くよさを味わい楽しむことができるようになることを実感した。

今回の授業では、生徒の実態をきちんと把握し、「自分なりの価値意識をもつ」「自分の考えを他者に伝える」という課題をもって実践に取り組んでいた。題材の目標として、「造形的なよさや美

しさ」を感じ取ることを「関心・意欲・態度」「鑑賞」の双方の観点で目標としており、造形的な見方・考え方を働かせた活動ができるように授業が構成されていた。生徒が感じる「造形的なよさや美しさ」の中心となる考えとして、「色・形・構図などの具体的な造形要素」「作者の心情に迫る」を根拠として挙げ、生徒が作品を鑑賞する視点が具体的に示されていた。

「絵が語る物語」という題材名や絵の中の事件を考えるウォーミングアップの活動は、生徒の興味を引きつけるのに非常に効果的だった。その後のクイズには作品の背景や物語を考える視点をもたせる効果があり、主体的で対話的な学びができていた。さらに付箋紙を活用して、自分の感じたことや考えたことを確認したり、友達と交流したりすることで、多様な見方ができ、作品の意味や価値をさらに高めるような対話的で深い学びができていた。鑑賞の視点を豊かにし、対象や事象の見方や考え方を深める鑑賞に関する資質・能力を育成する活動ができていた。

生徒の実態に目を向けて考えられた授業であり、生徒に付けたい資質・能力を育成するための手立てを考えて構成されていた。「人々の暮らしが分かる明るい絵だと感じた。」という感想から、生徒が作品を深く読み取り良い学びができていたと感じた。作品を捉える視点や考え方を与えたことで、生徒は感性や想像力を働かせて自分としての価値や意味をつくり出すことができた素晴らしい取り組みだった。

教師から提供する情報については、迷うところではあるが、作品が描かれた時代背景や作者の生き方が見えると、作品への興味がより高められる。生徒の実態に合わせて効果的に伝えていけると良いと考える。

新学習指導要領の改訂では、「生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育成する」ことを目指して、教科の目標三つの柱を基にして提示し、育成すべき資質・能力を明確にしている。基本方針である「主体的・対話的で深い学び」を基に授業改善に向けた取り組みを進めて欲しい。

